

# 早生品種「かおり野」の導入により、 イチゴの年内収量が増加

湖北農業農村振興事務所農産普及課

## 【普及活動のねらい・対象】

湖北地域では高設栽培の普及によりイチゴの栽培者が増え、現在45戸が2.8haを栽培しています。しかし、冬期は低温寡照の日が多く、保温対策を徹底しても無加温ハウスでは限界があり、イチゴの樹勢低下、果実肥大や着色の遅れにより、年内収量が少なくなっています。

そこで、現在の主力品種「<sup>あきひめ</sup>章姫」に比べ早く収穫ができる品種「かおり野」の導入をすすめ、年内の収量を増やすことを目標に栽培者に対する支援を行いました。



栽培研修会

## 【普及活動の内容】

5名の生産者が栽培する「かおり野」の栽培ハウス2,400㎡を実証ほかに位置づけて、育苗期から本ば管理にかけて定期的な現地巡回指導を行いました。

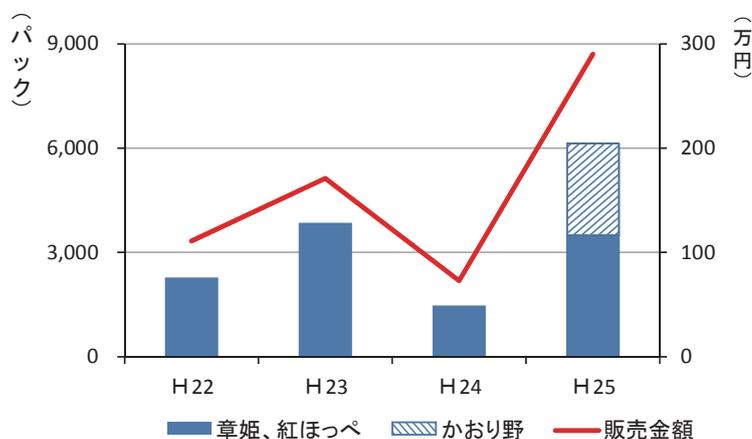
育苗期には遮光によるハウス内温度の調節や養液濃度を高めた管理などを中心に指導した結果、ランナーの発生が多くなり、目標苗数を確保することができました。

## 【普及活動の成果】

9月上旬には花芽分化を確認し、直ちに適期定植が行われました。定植後の生育は旺盛で、10月上中旬には出蕾・開花を迎え、早い所では11月上旬から収穫が始まりました。

その結果、卸売市場における年内の出荷量および販売金額は、昨年よりも4倍に増えて、早生品種を導入した効果を確認することができました。

12月に長浜市場で実施した出荷研修会でも早生品種に対する関心は高く、来年度、導入を検討してみたいという声を聞くことができました。



長浜市場におけるイチゴの年内出荷数と販売額